

平成 29 年度 第 2 回 荒尾市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日時：平成 29 年 6 月 28 日（水）午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分

場所：荒尾市役所 11 号会議室

出席者：荒尾市地域公共交通活性化協議会委員 33 名（内代理出席者 3 名）

オブザーバー 2 名 ※別紙出席者名簿のとおり

【事務局】

（総務部政策企画課）石川部長、宮脇課長、田中課長補佐兼政策経営室長、平山

（日本工営株式会社）白石課長、須賀原

1. 開会

宮脇課長が、開会を宣言し、資料の確認を行った後、欠席委員及び代理出席者の紹介を行った。

2. 会長あいさつ

会長である田上副市長からあいさつがなされた。

- ・前回の会議では、平成 24 年度末に策定した「荒尾市地域公共交通総合連携計画」が平成 28 年度で終了したことから、路線再編や乗合タクシーの導入などの主な取組みなどについて説明をさせていただいた。
- ・また、平成 28 年度に策定した「荒尾市立地適正化計画」とも連携しながら、今年度「荒尾市地域公共交通網形成計画(仮称)」を策定することを承認いただいたところである。
- ・本日は、今後策定する計画の将来像を共有するとともに、各団体が抱えている課題や今後の公共交通活性化に向けたご提案などについて、委員それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議事

宮脇課長が、委員出席が過半数を超えており、本会議が成立している旨の報告を行った後、設置要綱第 6 条第 2 項により、会長が議長に就任した。

(1) 第 1 回会議の議事録要旨(案)について

事務局（平山）が、資料 1 に基づき、第 1 回会議の議事録要旨(案)について説明を行った。また、荒尾市のホームページに掲載する際は、発言委員の氏名を伏して公表する旨を説明した。

質問や意見等は無く、承認された。

(2) 地域公共交通の課題についての意見交換

事務局（平山）が、資料 2-1 及び資料 2-2 に基づき、荒尾市地域公共交通総合連携計画の総括(抜粋)について説明を行った。また、資料 2-3 に基づき、荒尾市地域公共交

通網形成計画(仮称)の将来像イメージについて説明を行い、説明を踏まえ、利用者の代表者、交通事業者を中心に委員同士の意見交換を行った。

《主な質問・意見など》

- ・バスについては、不満の理由にも挙げられているように、バス停までが遠いという問題がある。路線図をいただいたのでそれを参考にして市役所までバスに乗って来たが、歩く距離が長いと感じた。
- ・万田中央地区にはバス路線がほとんどない状況である。荒尾市においてバス停を設けないバス路線(フリー乗降制度)を導入することは検討されているのか。タクシーのように途中で手を挙げてバスを止める事もできるのではないかと思うので、ご検討いただきたい。
- ・高齢者が増えてきており、特に70代の方が増えてきている。井手川地区からは、市役所や市民病院などの主要施設へ行くのに乗換えが必要となっているので、利用者が増えないのではないかと思う。住民からは、市役所や市民病院、文化センター、運動公園へ直接行ける路線を設けてもらいたいとの意見が多く出ている。また、荒尾駅から有明高専に向かう路線がないので、対策を考えてほしいとの意見も出ている。
- ・中央地区は公共交通の面では恵まれていると思われる。一方、あらおシティモールでは、店舗の数が随分減っており、集客が減っているのではないかと危惧する。空き店舗も増えてきており、その点も問題だと感じている。
- ・今のところ、緑ヶ丘地区においては、公共交通の面で不便なところはあまりないと認識している。
- ・乗合タクシーについて、利用促進のため公民館で説明会をされたこともあるが、公民館まで遠いため多くの方には来ていただけておらず、利用しやすいというPRが十分にできていない。家族や親戚が定期的に移動支援をしているので生活できている世帯もあるが、どうにかして利用促進に関するアイデアを出していただけないかと思う。
- ・市民病院までの移動支援に関する説明があったが、実際に公共交通を利用する側からの意見としては、バス会社やタクシー会社が衰退することは問題ではなく、利用する度に予約が必要であることや利用登録が必要であること、市民病院まで直接行けないことなどの方が問題だと思う。予約受付時間の拡大などをしていただいているが、利用者は高齢者が多いため、利用登録や事前予約、乗換えなどについて、ある程度の理解を得ることが必要である。
一方、バス停から遠い地域の住民からは、乗合タクシーは好評である。しかし、アンケートの中でも、家の近くで乗降できるので良いという意見があったが、今後利用者が多くなると、場所に関する要望が多くなり、乗合タクシーの乗降場所が地域ごとにまとめられてしまうのではないかという危惧もある。せっかくのアンケートであるので、その結果を活用して、少しでも仕組みを改善していただきたい。
地域としては、農家が多いため、一家に1台車を保有している世帯が多い。また、玉名方面への高校の通学については、公共交通の利便性が低いため、それぞれの家庭で送迎している現状である。今のところ、地区協議会として何か運行支援のための事業を行ってほしいという要望は出ていない。

- ・八幡台線は圧倒的に利用者が多く、路線を整備していただいていることについては感謝している。ただし、地区の状況を分析すると、八幡台地区には 12 行政区あり、八幡台線を利用するのは八幡台 1 丁目から 4 丁目の方がほとんどであると思う。一方で川登地域や野原地域、菰屋地域辺りでは、自家用車による高齢者同士の送迎が多い傾向にあると思う。
また、高齢者による交通事故が増えている中で、報道されるような大きな事故以外にも小さな事故はもっと多くあるのではないかと思う。免許更新も段々難しくなると思われるが、実際は高齢者が高齢者を買い物へ連れて行っている状況である。乗合タクシーを平井地区と府本地区に導入されたが、バスが通る表通りではなく、裏通りに居住される方も含めて対応が必要になると考えられる。今後は福祉の視点からも考えなければならない。
- ・有明地区は農家が多く、多くの世帯が自家用車を複数台保有しており、家族で送迎をしているという状況かと思う。先日あらおシティモールへバスに乗って行ったが、車内も広く、自分の車に比べ快適に移動することができた。
- ・清里地区からは、市役所へ行くのにバスセンターを経由しなければならないのが不便であるため、利用者が少ないのではないかと思う。
- ・タクシーのようにバス停以外でも停まれるようにならないかという意見があったが、地域によってはフリー乗降制度を導入しているところもあり、警察との協議により安全面の対応ができれば荒尾市内でも導入することが可能であるため、今後検討する。また、倉掛線をはじめ路線の見直しについては、過去の利用実績も踏まえ、総合的な観点から実施する必要があるかと思うところである。
- ・西鉄バス大牟田では、荒尾市との関わりについて、荒尾駅から大牟田方面に運行する路線と、福岡空港までの高速バスを運行しているが、非常に収支状況が厳しく、高齢化により利用者数も減少している。乗客の減少により収支状況が悪化し、便数を減らさざるを得なくなった結果、利便性が低下しさらに乗客が減るといった悪循環になっている状況である。対策として時刻表の配布などの情報発信に努めているが、まだ効果が出ていない。そのような状況の中であるため、車両の更新もできておらず、車両の老朽化が目立ってきているのも大きな課題であり、対策を検討している。また、乗務員が不足しており、高齢化も進んでいる。採用は随時行っているが、応募がなかなかない状況が長年続いている。今後さらに高齢化が進み、担い手をどう確保するか悩んでいるところである。
- ・乗合タクシーについては、各地域からシティモールまで平日 1 日 6 便運行されており、バスへの乗継ぎのための待ち時間は 15 分～20 分程度となっている。いずれにせよ、乗換えが不便と言われているが、高齢者の利用を考えると、現状の待ち時間は適切な範囲でないかと思っている。一方で、バスは一度に多くの乗客を輸送できるというメリットや、70 歳以上の方は 100 円で利用できるというメリットもある。高齢者に対する説明会も定期的に市役所で実施しており、利用促進を行っている状況である。
産交バスでも乗務員不足は深刻であり、車両の更新もなかなかできていない状況であ

るが、今回、新車のノンステップバスを1台市内に導入することができたため、ぜひご利用いただきたい。

- ・利用者の推移は、タクシーが微減、乗合タクシーが微増という状況であり、タクシーを利用されていた方が乗合タクシーを利用されるようになったところもあると思う。タクシーの特性として、ドアツードアのサービスができることや、いつでも、どこまでも利用していただけるということがあるが、乗合タクシーでは、費用対効果の面や安全確保の面から、そこまでのサービスは提供できていない。これらの移動手段を使い分けていただき、棲み分けを明確にすることが必要であると考え。病院のような主要な場所への移動はバスが、それ以外の地域からバス路線までの接続は乗合タクシーが担うというものが適切な体系であると考えている。
利便性向上については、予約受付時間を2時間前までから1時間前までに拡大するなどサービス向上に努めており、さらなる利便性向上もできないことはないが、それには費用が伴う。また、安全管理についても気を配っており、そこにも費用がかかっていることについてもご理解いただきたい。
また、PR不足もあるとのご指摘もあったため、今後は力を入れていきたい。タクシーとの違いが十分に浸透しておらず、乗合タクシーを運行していると、決められた時間より前に到着しているのに、遅いと怒られることもある。説明をしてもなかなか理解していただけない苦勞もあるのが現状である。長洲町からきんぎょタクシーが乗り入れていることでもタクシー事業としては影響を受けているため、費用対効果についても考えながら、利用者目線での改善を進めていくべきであると思う。
- ・荒尾駅の乗降者数が年々減少している中、フィーダーアクセスの強化が、電車の利用拡大にも結びつくと思っているため、世界遺産施設なども活用しながら、駅からの二次交通のアクセス強化をお願いしたい。
- ・あらおシティモールの活性化については、長洲町から、きんぎょタクシーを活用し、荷物を運ぶサービスを請け負うといった連携ができないかという話をいただいている。システムの構築には費用もかかり、まだ事業者側がそれに対応できていない状況であるが、費用については荒尾市と長洲町で連携して対応できないかと思う。あらおシティモールの売上増にも繋がると思われるので、検討していただきたい。
- ・県内の他地域においても交通不便地域への乗合タクシーの導入が進んでいるところである。市民病院への乗入れについては、制度としては可能であるが、乗合タクシー事業が進めばタクシー事業が衰退するということであるため、乗合タクシーの運行に対しては荒尾市からの補助も受けていることも踏まえ、良い方法を考えていきたい。また、長洲町や玉名市への運行については、各地域にタクシー事業者がおり、経営への影響もあるため、乗合タクシーは地域内で完結することを原則とすることにご理解いただくとともに、タクシー利用への助成についてもご検討いただきたい。
- ・熊本市内の商店街が行っている買い物支援事業で、購入した商品を自宅まで届けるサービスがあるかと思うが、どのような仕組みで行っているのか。
・買い物支援の一環で実施されていると思う。タクシーのメーター運賃を基準に実施されていたと思う。

- 運賃について商店街が補助をしていたかと思う。
 - あらおシティモールが買い物の拠点となっているが、第 3 セクターの施設でもあるため、このような事業に行政から補助を受けられると、利用者にとってもタクシー事業者にとっても良いと思う。
 - タクシーを利用されるあらおシティモールの利用者に対しては、タクシー事業者とあらおシティモールで 100 円ずつ補助をしている。行政からも追加で補助を受けられるとより良いと思う。
 - • 意見交換の中で、住民の方からも活発な意見があり、また、実際に公共交通を利用した上での意見も出されており、県内の他の地域と比べても良いと感じた。バスや乗合タクシーのバランス、費用的な制約、乗務員不足などの問題がある中、乗合タクシーの運行区域拡大がバスやタクシー事業にどれくらいの影響となるのか、その点が具体的に示せると理解を得やすいかと思った。また、バス事業の生産性向上も求められている中、利用者数を増やすために観光客をどう取り込んでいくのか、世界遺産施設をターゲットとした施策を考えることも重要であると思う。鉄道駅があるのは地域としては強みであるので、それを活かす方法について計画の中で深く検討してほしい。
 - • 各地区の代表者である委員が、住民の意見を細かく把握して発言されたことは良いことであったと思うため、この動きをさらに活発にしていきたい。しかし、乗合タクシーの利用者数については、路線バスが運行していた頃の利用者数である年間約 15,000 人の半分程度になってしまっているため、交通手段を変えたのか、移動しなくなってしまったのか、その原因等をしっかり検証することが必要である。今後人口減少に伴いバス事業が縮小していくようなことになった時に、コミュニティバスなどでどのようなサービスを行うのかを検討する際にも、平井・府本地区における状況を分析しておくことが重要になると思っている。
- 一方で、バスの利用者数の減少傾向が比較的抑えられているのは、産交バスのこれまでの地道な調査と改善などの努力の成果であると思う。ただ、詳細な利用状況について、路線ごとの大まかなデータしかなかったり、感覚に頼っていたりするところがまだあるので、今後詳細な調査を行い、改善を行えば良いと思う。

(3) 移動実態等に関するアンケートの実施について

事務局（田中課長補佐兼政策経営室長）が、資料 3 に基づき、移動実態や市民ニーズ把握のための調査概要について概要の説明を行った後、事務局（日本工営：白石課長）が、各調査の詳細について説明を行った。

協議の結果、承認された。

《主な質問・意見など》

- • 住民アンケートについて、65 歳以上の高齢者 1,500 名を対象とするとされているが、現在、荒尾市内に 65 歳以上の高齢者はどのくらいいるのか。また、1,500 名という数は統計上妥当であるのか。
- 事務局 → 高齢者数は 18,000 名程度であり、地区別の人口で按分して抽出した際に、回答率も踏まえ、人口が少ない地区からも一定数の回答数が得られるよう、逆算

- して票数を設定したところである。
- ・住民アンケートについて、郵送配付・郵送回収により行うこととされているが、回収率が低くなってしまいうことも考えられるため、回収率の向上のために工夫してほしい。
- 事務局 →市で全市民を対象に毎年実施している「まちづくりアンケート」では、40%程度の回収率がある。回収率を上げるため、各地区協議会においても、会議などの機会を捉えて周知にご協力いただきたい。
- ・将来的な公共交通利用者も含め、対象者を60歳代まで広げられないか。
- 事務局 →公共交通の必要性が高い方と、将来的に公共交通の必要性が高くなる方も含め、65歳以上に設定しているが、対象者や票数については再度事務局で検討する。
- ・アンケートについては、高齢者にとっても答えやすい内容とし、丁寧に説明をしないとなかなか回答が集まらないかを考える。
- 事務局 →参考資料として調査票の案を添付しているので、ご意見をいただきたい。
- ・実施時期はいつを予定しているのか。
- 事務局 →今回は大牟田市と連携して調査を行うことにしており、スケジュールについても大牟田市と合わせて実施する予定である。具体的には今後調整するが、7月中には実施したいと考えている。
- ・アンケートの実施自体を知らない市民も多いため、回答率を上げるためにも広報ツールを活用して周知を行っていただきたい。
 - ・他のアンケートでも同様だが、実施していることを知らない方が大多数であるので、しっかりとした広報活動を行っていただきたい。
- 事務局 →広報紙への記事掲載のスケジュールを踏まえると、7月号に掲載することは難しく、広報紙への掲載を優先すると、7月中にアンケートを実施することが難しくなってしまう。
- →アンケートを行うことについては、何らかのタイミングで周知を図りたいと思う。計画策定に当たっても、この場の協議だけでなく、市民全体に知っていただく努力をしていきたい。

(4) 生活交通確保維持改善計画(案)について

事務局(平山)が、資料4に基づき、生活交通確保維持改善計画(案)について説明を行った。

質問や意見等は無く、承認された。

4. その他

宮脇課長が、次回会議を9月下旬に開催する予定であることを報告した。

5. 閉会

宮脇課長が、閉会を宣言した。